

股関節手術台 人に優しく

千葉大など開発

医療用機器を販売するサージカルライアンス(東京・港、川崎善之社長)と千葉大学医学部付属病院(千葉市)は、股関節を人工関節に置き換える手術に適した手術台を開発した。日本ではまだ普及していない体の前側からメスを入れる手法に向けた手術台で、共同開発をきっかけに新たな手術法の普及を進める考えだ。3年後に全国100の医療機関への導入を見込む。



開発した手術台では、おおむけで脚を固定し、手術に最適な角度に調整することができる(写真は使用イメージ)

新手法向き、時間も短縮

「チ」と呼ばれる手術法に合うように台の角度や向きを調整した。

前方法アプローチは、股関節付近の筋肉と筋肉の隙間にメスを入れる。日本では一般的な背中側からメスを入れる方法に比べて、筋肉や神経の損傷を減らせるため、リハビリの時間短縮にもつながる。出血量も抑えられるという。同病院によると、従来は平均で約2時間かかっていた手術時間を、最速で44分で終えることができる。患者の出血量も平均で3割程度減らせるという。

手術台の価格は1台600万〜800万円の予定。受注生産で納期は2

カ月〜2カ月半程度という。現在最終調整の段階で、11月をめどに受注を始める見込みだ。

サージカルライアンスは、同手法に関するノウハウを持つ千葉大大学院医学研究の中村順一医学博士と組んで製品化に取り組んできた。中小企業庁のものづくり補助金の対象に採択されており、認定支援機関である京葉銀行から申請書作成などの支援を受けた。

人工股関節に置き換える患者には高齢者も多く、手術時の体への負担はできるだけ抑えることが求められている。高齢

者の増加とともに患者数が増える可能性もある。同社は中村氏と共同で、患者にとって利点が多い前方法アプローチの手法

を全国に広め、各地の医療機関への導入を進める考えだ。サージカルライアンスは07年の設立。これまで

で人工関節や医療機器の仕入れ・販売を手掛けてきた。今回の共同開発を機に製品の製造にも参入する。